

記録 議会・さくばらんとーク 市民と議会の懇談会

2012/3/25(日) 16:30~18:00

市役所第一会議室

午後2時からの議員研修会終了後、引き続き参加の市民と議員が4つのテーブルに分かれて、それぞれ担当の議会運営委員の進行で懇談した。

- ① 議員は会派、地域、男女に配慮してグループ分けし、市民は受付時に機械的にテーブルナンバーを割り振った。
- ② 各グループとも、まず自己紹介と関心のあるテーマについて発言し、グループごとにテーマを決めて懇談した。
- ③ 最後に各グループの概要を報告し(各3分)、森戸委員長がまとめのあいさつをした。
全体進行担当：漢人明子

■ グループ1

担当・報告：中山克己

【1】 参加人数 市民6人、議員5人(渡辺ふ、鈴木、青木、森戸、中山) 計11人

【2】 話したテーマとテーマごとの主な意見など

(1) 興味を持った話題

- ・反問権について
- ・議会運営について
- ・議会報告会を聴く会
- ・議会としての報告づくり
- ・議員間での温度差
- ・議員間討議
- ・議長の采配
- ・市政・財政をよくする方向に、どのような方法が良いか
- ・会派はいらない
- ・U S T中継
- ・市政に関心をもちたい
- ・議会が活発なわりに重要案件が進んでいない

(2) テーマ別協議 1 反問権

- ・反問権は必要
- ・同じことを繰り返す質問・答弁を回避できる
- ・ムダな質問がなくなる
- ・民主主義の討論を充実させることができる

- ・全国的に反論できないところ程、反問権が設定されている
- ・反問権の設定だけでなく、議員の能力にゆだねてもいいのではないか
- ・議会を信頼する必要があるのでは

- ・政策立案能力が上がる
- ・制度化する必要があるのでは
- ・制度化したほうがいい

(3) テーマ別協議2 会派

- ・中味が良く見えてこない
- ・政策集団だが小金井の場合、よくわからない
- ・政策集団なので意見・方向性は一致している
- ・政策実行のために必要
- ・個人としての意見と会派としての議決態度が違う場合がある
- ・議会が活性化しない。活発化すればいいのではないか
- ・市長支持、反市長という構図ではなく、どれだけ市民要望に柔軟に発揮できるか
- ・結局ドラスティックに変えなければならないではなく、もっと柔軟にやっているということも必要なのでは

【3】その他(気づいたこと、今後にもつけた意見など)

自分の進め方、やり方と違うからということからか、グループの進行役を無視して進行をはじめた議員の方がおられました。

また、その議員の方からは、「市民のかたの意見を多く聞くことが今回の趣旨」といった発言でグループの進行役の進め方にその場で異議を申し上げられる場面もありました。

正直、私自身、非常にやりにくく、テーマ別議論をそろそろ纏めて次のテーマに進めようかと思う矢先のことで、そこから議論が発展してしまったために結局まとめることができず、予定していたテーマを一つ割愛する結果になってしまいました。

グループ協議のなかに市民の方がいらっしゃいましたので、特に私から制止することは遠慮させて頂きましたが、議会報告会では、このような問題が再発すると思われ、なかなか難しいものであると改めて課題があることを実感しました。

また、このようなグループの討議では、次回から希望者にグループの進行役をお願いしたほうが、今回のような異議もなく良いのではないかと考えました。

■ グループ2

担当・報告：宮崎晴光

【1】参加人数 市民5名、議員6名（野見山、遠藤、板倉、小林、片山、宮崎） 合計11名

【2】話したテーマと主な意見

- ・第2テーブルは、議会報告会に話題を絞って議論した。
- ・まず最初に、参加市民から自己紹介と討議したいテーマについて発言があったが、最初の方が「議会報告を聞く市民の会」のメンバーだったので、議会報告会の話題が出て、その後の市民もこの流れで発言が相次ぎ、自然とテーマが絞り込まれた。

- ・最終盤のまとめをやっている中で、遠藤議員から「反問権についてはどうですか？」と言う投げかけがあったが、その議題に入っていく時間が全くなかったので、テーマは一つだけとなった。

●話された内容（主に市民から出た意見）

- ・議会として報告会はきっちりとやってほしい。
- ・U s t r e a m中継を見ているが、もっと効率的に話が出来ないのか？
- ・市民は素人が大多数なので、市民にわかりやすく話をしてほしい。
- ・選挙の時しか議員を意識しないのが現実。選挙期間も朝出勤し夜遅く帰宅するので、議員とふれあう場が無い。その意味では報告会は歓迎する。
- ・議決の結果だけ知らされる。その課程でどんなことがあったのか、少し踏み込んだものを知りたい。
- ・議会報告会を行ったら、その声を市政にフィードバックさせる仕組みが必要。結果を行政と議会に振り分けてきちんと処理してほしい。
- ・報告会を続けて行く内に、出席者が固定化されてきてしまうのではないか？今回無作為抽出でアンケートを行うそうだが、無作為抽出で有権者にハガキを出し「おめでとうございます。あなたは当選しました」と言うような企画を行ったらもっと多くの人が出てくるのではないか。
- ・議員から「市議会で報告会をやると、中立性を意識して通り一遍のものになってしまう。議員も個人報告会をやっているのに、詳しく知りたければそちらで聞けるのではないか」との投げかけが行われたが、「特定の議員の報告会に出ると、その支持者と見なされる恐れがあるので、フラットな人は行きにくい」との意見があった。
- ・議員個人が「議会として後々議会報告会で報告する」事を意識しながら発言すれば、議会での討議も変わってくるのではないか。賛成か反対化の二者択一だけではない議論も必要で、微調整する柔軟性もほしいと思う。
- ・U s t r e a mで見ていると、「起立多数で可決(少数で否決)」との声は聞こえるが、その中身が分からない。報告会の中では、個々の議案に対する議員の裁決態度表も配ってほしい。
- ・所沢の報告会に行ってきたが、所沢の議員もやって良かったと行っていた。立て前に過ぎる様な気もしたが、ある程度は効果があるのかもしれないと思う。
- ・市議会のホームページを充実させ何でも見られる様にするのは良いことだが、読まない市民も多くどれだけ金をかけるかというコストパフォーマンスの部分も考えるべきだ。
- ・条例・規則等が市民に分からない。ウェブサイトで検索すれば見られると言うが、具体的な事例に当たっても市民に分かりやすく解説しながら説明してほしい。
- ・4年に一度の選挙の時だけではなく、市民と議員が話をする場所が必要だ。

【3】 その他気づいたこと等

- ・「議員と話が出来て良かった。この様な機会は大切だと思う」と一様に評価されているようだった。
- ・第2テーブルでは、全くの素人と自分で言っている人と、若干は知識と興味はあるがこれまで市政に参画したことの無い人が大多数だった。そういった意味では一般市民の生の声が聞けたと思う。

■ グループ3

担当・報告：渡辺大三

【1】参加人数 市民6人、議員5人（武井、紀、中根、関根、渡辺） 計11人

【2】話したテーマとテーマごとの主な意見など

（1）興味を持った話題

主な意見（要旨） ○=市民 ●=議員

- 組合事務所を無償賃貸しているのは問題である。
- ユーストリーム中継で議会と市民の距離が縮まったら、逆に議会不信が増えてきたように思う。原因を解明すべきだ。
- ユーストリーム中継を見ているが、その日に何が議題になるのか良くわからない。
- 議会報告会の開催は、議員にとってもメリットが有るはず。支持していない議員の話を聞ける所に、議会報告会の意義が有る。
- 議会報告会を開くべきである。ノンポリには個々の議員の報告会参加は敷居が高い。
- ユーストリーム中継を見ているが、テーマがわからない。休憩がいつまで続くのかも分からない。ユーストリームもいいが、議会としてきちんと発信できる取り組みが不信感をぬぐう一助になるはず。
- 4年（ごとの選挙）を待たずに評価を受けることが必要。
- 議会基本条例ができたなら、ほんとうにやるのか。自治法の中でやれることもやっていない。市民の意見をどう吸い上げるのか。
- 議会報告会を開くと（忙しくなり）、（本当に困っている）市民の意見を聞く時間が制約される。議会報告会に出て来ない市民の意見を吸い上げも重要。
- 定例議会のない月が8か月もあるはず。
- 議会基本条例づくりには、全議員が等しく公平に参加することが大事。
- 議会報告会で、「裏話」を聞きたい人に、どう対応するかは課題である。
- 「反問権」は、市長と議員の双方で話し合っ、いい所でまとめていく必要がある。
- 議会報告会は、どういう人が報告するのか。一箇所に24人で行くのか？
- 議会報告会は、参加市民がいつも同じになるのではないか。普通の奥さんが市役所にまで来るのか？
- 議会基本条例は、今後骨子が出され、アンケートも行われる。条例で整理するもの、規則で整理するものに分かれると思う。
- 議会基本条例に対しては、私はちょっと冷めている。一般市民は政治不信である。「基本条例って何なの？」。一般市民には分からない。
- 基本条例と言うと難しく感じる。民間企業に経営理念が有るように、議会基本条例のモットーを5つくらい入れた方がわかりやすい。
- 議長選でマニフェストを掲げている例もある。
- 議会基本条例の意義は二つある。議会の「見える」化。議会の「中身」の充実。小金井市議会は「見える」化は進んでいる。「中身」を充実していけば不信感が消えると思う。
- できることは限られている。まずは「全体像」を見せてほしい。
- 議会は何をやっているんだ・・・という市民との溝を埋める必要がある。
- 議会が何をやっているのか、どう市民に示すのか、考える必要がある。
- 市民が議会に不信を持つのは、市民が考えていることと違う結果を出すからである。議会報告でその理由を説明するだけでも随分変わるのではないか。
- 議会報告会はやはり必要。なんで駅前ホールをつくったのか、説明が必要。聞かれたこ

とには答えるべき。

- 多くの市民は、議会がどこにあるのかすら知らない。
- 他市の議会報告会は意外と淡々としていた。割といいと思った。
- 一市民として、嫌がらせをするのではなく、参加してみたいと思う。
- Xさんが行なったユーストリーム中継は、議会が佐藤市長をいじめているように見え、議会は何なんだ！となったのだろう。そういう議会への誤解を解く意味でも議会報告会は重要である。
- 議会報告会に出てこない人も多い。「議会だより」の見直しも必要。重要な議案については詳しく説明した方がいい。
- ユーストリーム中継は音が小さく聞きづらい。
- ユーストリーム中継は、音声のエコーがかかって聞きづらい。
- ユーストリーム中継は、野次や傍聴席の音声聞こえなくなりライブ感が減った。ライブ感を出してほしい。
- ユーストリームを見ているが、未明までの議会にはおつきあいできない。結果だけでも分かりやすく伝えてほしい。議決の「主語」は議会。議会にこそ伝える責任がある。
- 審議が長引くのは仕方ないが、身のある議論をしてほしい。
- 議員間討議もぜひやってほしい。

■ グループ4

担当・報告：宮下 誠

【1】参加人数 市民8人、議員6人（水上・村山・露口・田頭・漢人、宮下） 計14人

【2】話したテーマとテーマごとの主な意見など

（1）条例策定へのスケジュール関連や自己紹介でのコメント

- ・三鷹市の自治基本条例の作りこみでは、6年をかけて丁寧におこなっている。他の事例でも、場合によっては7～8年ぐらいかけて、市民との対話をしながら進めている。市民との対話が大切だ。今回の、議会基本条例の制定への進め方はかなり拙速に思える。
- ・年数をしっかりかけて作った条例であれば、後日もしも訴訟になった場合でも、「これだけ時間をかけたのだから」とか、「これだけ長期間、住民の声を聞いて作ってきたのだから」とか、言い訳の余地がある。短期間で作った場合は、それができなくなるリスクがありますよ。
- ・条例をつくっていくにあたり、市民の声をできるだけ広範囲に聞いていくことが大切だ。偏りのないように工夫しなければならないと思う。「どうやってより多くの市民の声を聞いていけるか」考えていくことが重要だ。
- ・今日だって、ここに集まった市民は、ほんの30人程度だろう。これで、市民の声を聞いたことにはならない。今後のシンポジウムなどで、市民からの発言をどのように吸い上げるか考えることも大切だろう。
- ・今、国の政治には不信感がある。せめて、市政に望みをかけたい。
- ・栗山町議会の基本条例に関する書籍をちょうど読んだところだ。非常に興味深いものがあった。これを、小金井でどのように取り入れていくか関心がある。
- ・ごみ問題では、住民の生の声、現場の声が議会に反映されず、本当に憤慨した。市民の意見を、どのようにしたら議会へ届けていけるかが大切だ。より、スムーズに反映させるようにすべきだ。

- ・都内から数年前に越してきて、行政サービスの低さに愕然とした。
- ・以前、タウンミーティングで議会に対する批判が相当でいたと思う。そういったものを見て、この街の危機感を感じた。
- ・60年代の代議制は、もはや行き詰っていると思う。2000年には自治法が大幅に改正されたが、ローカルガバメントの変革はなかなか進んでいない。ニセコ町では、自治基本条例をつくった。小金井市は、こういった自治基本条例と議会基本条例の整合性をどのようにとっていくのか。
- ・聞いていると、議会内の内向きの話が多いように思う。直接民主主義で市民の声を取り入れて、活性化させて、代議制民主主義へ返すという、レスポンスの流れをつくっていくべきだ。
- ・たった1年間で議会基本条例をつくるというのは、議会の都合なのか。もっと市民の声を聞いて、内容であるとか、スケジュールであるとかを見直して、議会でもんでから市民へ戻すというローリングをおこなうべきだ。せっかくだし、良いもの（条例）をつくるべきだ。性急に進めるといふなら、議会に不信感をいだく。

(2) 条例の内容・項目について

- ・条例の内容云々より、最初にまず、議会の現状について、市民全体へ説明していく責任があるのではないかと。他市の先行事例を研究し、議会全体のHPをつくってほしい。このなかで、内容の選考過程について透明度の高い進め方をお願いしたい。
- ・条例の内容が大事だ。特に住民の直接請求についてだ。市の施策に対する市民からの要求が一定数あれば、説明責任を負うという制度を考えるべき。
- ・議員間討議は、いったいどういう風にやるのか。
- ・(市長の) 反問権は当然導入するんでしょう。
- ・中尾先生の話にあったが、議会報告会を町会や自治会の力を借りておこなう案は良いと思う。これはやったらいい。
- ・UST見ても興味わかない。議会での質問のルールとか。なんで今、休憩しているのか・・・とか、市民へもっと説明すべきだ。
- ・なぜ年に4回の議会があるのかなど、議会の基本的なことを市民へ説明して、もっと市民が議会へ関心を高めるよう工夫すべきではないか。
- ・京丹後市の議会改革について調べてみた。まねる必要はないが、ぜひ参考にしてもらいたい。
- ・アメリカやヨーロッパに住んでいたこともあるが、向こうの市議会議員と市民は、非常に身近な間柄だ。気楽に「よお！」と挨拶できる仲だ。日本の議員もそうあってほしいと思う。